

乾先生を偲んで

宮崎 快堯

(自毫寺住職)

乾泰正先生の在りしときを思うとき、私にとって先生は心の師でありました。とともに先生への追憶をたどるとき、その懐かしさはひとしお深く湧いてきます。

私は更生保護の公務に十年間程、従事したことがあって、先生とは、奈良保護観察所で所長をしておられたときに、諸般の指導と薰陶をうけることが出来ました。

先生は、月刊の仏教雑誌を読了されたその都度に、当時執務している私に直接手渡していただいたことは、私にとって忘れ得ぬ感謝の思い出の一駒であります。

保護司研修会で、先生と御一緒させて頂いたときの印象ですが、先生はお声がよく徹ととるおはなし方で、その「でだし」の調子がある場に人々の傾聴への導入の

妙を得ておられるのに私として「はっ」としたことがあって、学ぶこと大であったことを思い出します。

先生は必ずしも頑健なお体格ではありませんでしたが、精神的には強靱な宗教的信念のようなものをもっておられたし、勉強御熱心などころの学識を身に秘め乍らも謙虚な方でした。

先生はお酒を愛され、お酔いになれば、飄逸としたところを態度に現かされて、共に談笑、世事の憂さを晴らした楽しい一刻ひとときも、ありました。

先生の御風貌、御容姿は、今でも、脳裡にあって、善知識としての乾先生への追慕の念は消えません。

先生への思い出は尽きませんが、極く端的な記述で、回想の断章とさせていただきます。